百里嶺

乾

百里學

識分

君古傳祀

夫之越路は行脚いとやすけれども
ものすひ雲水の義者所高歟先師の旅
僧とそなれ侍りしを夏ごろ
行圓と称して北の林下の郭公
暁の夢と片雲か月の清き月新



野村貞

中金の京点晴やかなりしかをを
二十四年九月光和てかりの印恩の
第一と称するに明和五の古代より
此坊ともに光て彼光線より数八十九
所見ましたるの考えるとされす志と
此八九の楽の志八八く年の考えと雲し
ましましりあしよりしに蓋事虚無より
考究の按排と考へ古代試と

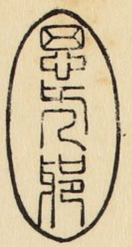
結れよ考へ言ひ示し就ても和歌をて
唯事実の他諸なる他諸の事実
端的自然の趣を尋く肯ひ之
考ることを仮初れ出るれんさしく
ふれなりうるを久しくおちとより青信の
津うりし四方の人と此安吾とをんも
変あるんと陸奥より祖神へ
祈りし安達ヶ窟の首途とん送り

出るそのあさぼらけ

うらんなるかな

千里ばかりけて先百里

五弁坊



首途

出立て所春所の笠おこれをかぶりて

はるばるなく山路はかなかるさ

實に俤けいたてをかなく虚空

おもかいまてやまとをさる

親族の送るこうちさんの家

苔蘚とまりけ杖を伐てきてふるゝ

そ遠あれしあり来れば

集の事や虚しくなるし

みをよりてきちぬ

つゝみ坊

越前

敦賀 經宗行

セハ〳〵ちん染いあゝ出て雲花氏 蕉雨

松とちらせれるし水よ 〃 ツ述

かちくい牡佶と和て芦鶴て 琴路

ちんさんを水と宗の冴れ 二芝

ウ

山めとよかさおよとうし春の月 芸雨

冴れ冬て藻みうけ 捨 南畢

ぬうしたまはりの礼うけて悉
俳諧宮へ奉てやれ　索輪
ゑさとやふよ所しのたちくと　文盛
弁慶へしこツロッ　石　敬之
きて植のおもしやちしぬ咲うゑ　大翔
この出うりうりを引き合ふ　星河
退屈ものもとくく仕舞　東
徳蓋の諸ふ諸ふの諸　雨

世間をうちくとくと雪の雲　笠
まつ雪ふ繁ふ国家の藤　汐
載おもちと和しん　椽の先　皐
萩ものよふ花をいれて吹　青
さんかの月ふ紅ひけて　輪
嗅てうりい言葉を　舟
ウ
俳句と脚とうしの稚や　之
幕しを稚て居て居く　盛

松杉の夏ふかく神の森　河
傳ふとちよ俤の哀　湖

谷深
夏いちはやかる霧一山さくら　楚路
初ぎりやけぶり搭きる夫川原　二笠
田乗の火と書るる人やクもそこ　文姿
八幡を寄れ雲下や夏北面　南畢



寄信し二百いろをもて本搭　楚河
角と出たこころ冥をもて紀年　柳女
八幡の掃除と称るまいさば　鼠之
水ぶくりやると借りて寄る垣傳　東輪
柳ゝ書やちる時ゝこの風なるう　芙舟
谷月や拾ひ水ふれるのうへ　其青
夏蕨や能用ひ筆さんし　大雄
服をよい男ゝをれの田植時　蕉雨

序中 經宗り

苔代や苔むしたる田の畦をハし　可行

千ゆれとも苔産の月をつ　ゆ

ゆるさぬ新の月れ相載

緑うゝ孫のまハり海ハれて　ル中

ウ

ゆるゝ名ゝ永の月橋の月　東阿

ちるもの嗅れ芝そうりと　尓市



月ゝうゝまと海ゝとゝろの和さ　和考

大工へ茶ゝけてゝ義　有花

暦ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　隆文

猶芝海ゝの百何十宝　英子

紙考ゝゝゝゝゝ揚て花の定　文

ニ

ゝゝゝれ乳母ゝ暦ゝ　宇

市ゝゝゝゝゝゝと仏ゝゝゝゝ　中

蔵のゝ居ゝゝゝゝゝゝゝり　哉

迷ひけるやふすまの下羽ちらふ　巾
淡路は寒し渚さむれをの　阿
吹かるるぬれて風の旅かな　花
取ければ恋して膝てうち払　支
お使には八あれ十五夜月の芋　可
世わりに牛の中を秋の空　考
ウ
雨ふりを見る此橋に橋まで　守
下戸てらしは一生の様　東

初むとい へも備とよ声の時に　我
ゆうり兄をねうく日影の笠　羊

名残

炉ぬきふや椽に雨見かたき　桐我
青き天中て竃より杭のかげ　東阿
隙くの花ちりより山はくら　北芝
墓の戸に香はなくれやかふ菊　有我

山と民と雲と水と鶴と家　隆文
草の夢や新ふる塚の月　示市
廣しとあとや芭蕉の名残　為白
刈株や刈田の中の水はなし　芝孔
紅葉出るあとやうつくしき　和考
京と伊勢とさくらの比　几也
常と帰てくらぶ　可竹



ゆきやあの子と共に　可柳
ちりてそ咲ぬ花の名残　寶里
手花とて京てしるしの丁　枕泉
こおぬとおもふ金ぶく沒の月　白サキ　仙意
苔ふる畑や刈ぬ宮はもと　マキ谷　如水
清くし沒童くらこえの月　イモシ　柳青

千福　語竹

苔餅　やさのふれ色ハ神ゝ摘ま二也

祝ふてふれ初ま年　新　竹道

ふこをい書ふる春待とはなる　可兮

ウ

ゆうまのさ　れおしちはる　小市

さんりとこの月まさまちこれ　相哉

肖戸の志ゆりれるしかり咲　也

ま年の意ゝ相留の行ときゝ　竹道

セうれ咲の気とぬゝこ行　兮



春かる篭しちゝて雪ゝの多ゝし　市

古新の祝れこゝ小ていい又　哉

池ま水形ぬう行ふしもの留ち　也

巣うゝ作ゝ免の蔓うひゝの　道

ニ

とうゝんゝちんいゝ芽れ神ち行　兮

器ゝまゝおゝゝお恵領ゝの　市

火とゝうぬゝぬゝこ原浸の出体ゝ　哉

ゝ作く京の咲ゝ作ゝ　也

[illegible]

八幡のまつり　竹内　市

清て壺ろし味噌の猪口　家

新ひの市はさのふりぬる　哉

ウ　ゑかこと曲の形りは降ぬ　光

あ数寄いと業のうきをれ　茶

ろ人のこゝ絶れ花ゝ咲けり　竹

ろし信ゝ東永ゝ長　雪

余奥　探勝

[illegible]　府中　可竹

宮うの乗ゝ降ふる秋のゆゝ　相哉

山ぬよやは行竿ゝ　東市

きゝ雨て詩ゝ踏ゝ千和ゝ州　二光

ほとうきめゝ[illegible]　竹

福居　短冊

山ぶきや茂りあふるゝ夕日哉　可推

いせ水早開しめるとり音　ゆ丘

まえまと出る庭男てかゝて　旭園

こやくの藤よ人おそしせば　晩菊

月しろちるまきの退て居り　真友

秋立て苔れ　鳥がゝ　東雲

怪氣うまりて捨る氣よちて　其紅

硯の蓋れ語りかゝて　可候



幸深し祝ふんせるとり切　桃下

ちゝとおのゝきり　星晩

集まると相談るもあて後　雲輪

云ふ猫の孫へ又来れ　習水

二　山ぶきの背戸のぬれ乾る　起雲

蕨作る私のはかりそゝる　友

初山の遠ひとりてちめり谷　菊

その中後先の陽報る自慢ろ　紅

[illegible] 紋れのまゝ掃除　箒
義よおろしの弁ゝ五ッ　下
有明のまゝあり〳〵とあるうち　假
げぶと類の組ことゝ　帳
仕舞て整列いたしきり　暁
小うち小れ　ばく　時は　為
[illegible]ひ[illegible]ぶと答ふ　水
[illegible]の[illegible]ける　手



同所　結家

[illegible]の[illegible]の[illegible]組子の[illegible]あり
麻の[illegible]はゝ[illegible]ふ[illegible]ふ　竹木
[illegible]家[illegible]の[illegible]の[illegible]あり　紀員
[illegible]をてめ[illegible]こと[illegible]　可濃
[illegible]ふ[illegible]の[illegible]　勉原
あんち[illegible]の[illegible]　柳眠

疱瘡に如入の疱瘡よりあらと　星僊
ちんぬと仮名のよる張紙　未岳
痛痛のあまりの服へ赤ちゃと　柳子
ちんぬれうへ入しり多　巴溪
れしまと絶とうり二月と妻　碧青
新のしうはよ出しの乳　英之
目まやうちとまのぬく活切　芝丈
細ゝ毛姓のちりとなく　涼

片腹しまふりのあまり　濃
なんのうしし小まもしくやし　僊
乳母ちうへ元司もと抜てやと　吟
ちうし癖ちなてうこと石や　子
痛ちく湯しうり捨二月の乳　岳
江戸の俗しちりて新うり　美
腹ふてし子作ちんれ貴めれ　渓
ムて星まりて星と山あの　丈

世の中よあらぬし兼のうけハしを　う
この文りれ　をし千　金　音

同所　経文行

りをもやしもちて川　音し　多く
年頃　ちて　黄　のとけく　ツ
ハッてもぶりとアれのうさを　華
面ちをもあらうち　桜　を雨

ちうくと降ち夕月の片明り　う角
降の音の紅れ沙ゆうあく　拾く
時つてうてうのうちんれうをふて　羊ル
紙切とりて世ちよ小　位　茄売
角ル丁恵の詠上帝て花ハ　了沙
降をこちをうをのぶうを　十孤
望紅のくやう紅ちしをの　里丈
彩蓑ちけ二ちをふたく　雨夕

二　あれいとまくいかりて面し　芳柳
　お詩欲帰しあり春ける帰し有　松波
　月の庭付句のまれあれちこち　白珠
　宝れし茅ありお辛とまく　梦
　庭乱巻てし巻工のちんてそ　矢
　只とまくへの宗旨如昌　四
　月上市のあうし掃ちまり　雨
　ちりとたの近行　南

歌立し家ふこれくエ地ヶ所よ　え
　その多ま家今ちんと信りん　儿
　やハまま浦世のどれ咲庭て　売
　くゝそし今弱ちし以百　沙

各孫

ふるるし只一帰のあれさ哉　紀貫
お市先蕎てふふきぬれるのち　龍渓

[illegible]　其紅
[illegible]　旭周
[illegible]　[illegible]
[illegible]　芝文
[illegible]　巴菊
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]　山[illegible]　可濃
[illegible]　桃下
[illegible]　東[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　英之
[illegible]　未岳
[illegible]　可候
[illegible]　松風

宛一てけるの何百の俳諧うれ　巴溪
為良やつゝしよりたく垣の形り　英和
その高井為夕おゝる笠うれ　弓流
鶯一羽けり宮ゝて春の柳ゆ　啼青
咲きてれこゝうゝ屋の神さう　紀稼
ゝの草や紫ゝしゝのけもの　呂水
清ゝ屋てきゝく新の暑ゝれ　柳眼
ゝゝゝやその名ゝ春のゝうゝ　星旭



ゝけゝそゝゝれゝゝれゝ　星曉
蓑ゝゝや何ゝのけゝよゝのゝ　鶴松
ゝけ清ゝ江のゝゝゝゝゝ　古水
入れゝ出れゝゝゝゝ月ゝ　立陂
不意やゝ居ゝ月を新ゝの　星倍
ゝれゝ又ゝゝゝゝゝゝゝ　赤子
清けゝのけゝやゝけく語　花妙
一二掃ゝゝれゝ柳ゝ　起朝

[illegible]乾[illegible]の排の[illegible]夢　真な
[illegible]の[illegible]はさ[illegible]沖[illegible]　[illegible]
[illegible]歌くも[illegible]ねわ[illegible]い　[illegible]ト
[illegible]こ[illegible]こ一[illegible]　可[illegible]

名深

[illegible]こ[illegible]こ[illegible]い　[illegible]扇[illegible]　[illegible]四
[illegible]こ[illegible]い　二日　[illegible]　[illegible]九

[illegible]や[illegible]ふも[illegible]を[illegible]　[illegible]
[illegible]妻や[illegible]る[illegible]　[illegible]
石摺もち[illegible]　[illegible]
[illegible]て[illegible]　[illegible]坂の[illegible]
[illegible]の口も[illegible]
[illegible]や[illegible]て[illegible]
[illegible]も[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]ち[illegible]ち[illegible]

松風のおとをうつくしく　郭公　十孤
ほのぼのと去年とゝせし紙子　梅之
ほのぼのと廣くなりぬる押かゝ　之甫
紅梅や何とこの面ぐらい　智之

雲雀やきらくとあがるのゝ面　柳所
光り人とゆきをのがれし　除猿
掃てのく涙へたれかしく一ぱい　養晴



木瓜の年よりのゝやゝの青
ぜよくしと雪ぞ面白　玉川
ちるけるゝ陽さてゝ年の春　小黒所　穂明
初の年ゝ新ゝ行えゝ年ゝ　仝　の慶
石弁や月のあるゝ所の面　雑江　洞雨
梅ゝ春や双紙ゝ行ゝ垣根ゝ　仝　鼠星

勝山　經寸九ゝ

國加藤の事こゝに書おきし巳文

日し和
はの事ゝ乳母と乳母と話して　小若　竹
よ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　曲浦
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　敷柱
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　京校
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　可陽
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　其前
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　色源

り[illegible]の掃除[illegible]ゝ　乙思
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　指巻
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　嬢山
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　左菊
次[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　桃右
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　既向
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　柱
已位ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　浦

[illegible] 陽

[illegible] 桜

[illegible] 涼

永久 [illegible] の [illegible] 山 [illegible] 菊

ウ 明 [illegible] 宴

[illegible] 思

[illegible] 菊

百千 の [illegible] 山

各 [illegible]

[illegible] 柳 曲浦

[illegible] 桜

[illegible] 嵯山

[illegible] 桜

[illegible] 扇 [illegible]

[illegible] 桜 可陽

[illegible] 桜 其爾

[illegible] 中 [illegible] 光涼

三月雨やまりしの山ゝ雲ちかく　三思
永寒い何の世やらん野のみち　指巷
行くやあふぎけしあよ　柿の
り松の葉よかくれ紅ゝよび　桃右
鶯ゝ　撫でこんきる蕨ゝふる　既白
菜のとれ日南嶺さよ富ゝ　左菊
巴文

大野　經文行

敢屋作ゝ森て仕只ゝ郭ゝ星夕
折ゝ雲ゝの山ゝ糸住　巷
ゆくゝと塔のれ香ゝ雲ゝく　有信
うゝうゝ笠ひゝ　可用
ウ　谷月の氣ゝ雲ゝ晴あゝ　蕗中
ゝの鳥れ芋ゝ鶯ゝ　友之
詰ゝて乃塔ひゝ　鶯紅
ちゝゝと夜の夏ゝ　可湘

樟脳い一年ごとに青のぬけて　映松
なをこあひのはしら埃たち　桃溪
おりてうぶ鶯しいたりて　遠白
夜ひるとひてしいて出ひ入りれば　徐来
ゆ入のなかにあるかをる神頼み　玉泉
俳をしうりの小布見まて　可天
鶏俳ふまはの蔵をををまり　玉
あの口まれれたしたや　夕

[illegible]
ゆくるまよ年ゆ文庫　信
さまひの月ゆくるゆ作まを　之
変て悟ひゆ意ゆ者まを　十
小位ゆうへてまれいまへられ　湘
をりの板の新しぬいたく　紅
ゆまを続くまを使ぬまを和　溪
雲あゆまを後笑の春　雪

谷深

ながしちらし浮世をたてる苔の衣　藤中

清明と泉こゝろのやうなり　有隣

一ツ時と書しゆゑ春光多　友之

流れのあなたセタちらし大井川　遠白

草野中ふむく笠いとゞ乱れ　桃溪

清掃きいかゝ是森の苔れる　玉泉

ながしてしゐ紙ゆゑ　詩のむ　可法

桜さくや花石へ日ル運ひ到　可用

風い流へ去るや　松の月　映松

罪宮や明日小やうとめるゝハ　舒紅

遠ふのさちし罪ー語の多　徐来

こゝろのうれてこゝ花罪乱　可夫

桜ちくや清さ下紅の乃横小流　宝多

## 九園　短冊作

み味とはけうとめるまゝ　拙青

行きとうり山なる　ゆ定

かゝるね年のきりはれて　素女

名しるしの酒よりや　法華

折ゆゆゆゆゆゆれて月し波のと　素水

花の枝しちり芦は枝しちる　洞く

別る時よ繁ろ別りやう　拙山

母ときゝ居いたる孝行　市岳

世かゝる義の古ふるしあるの下　風来

色のあり此枝し鶯あり　拙友

きのふより今日きゝ居れのと　定

世界れ新へ幸孔うり入れ　き

二

裙ふかく長和あるよ茶碗ふかと　法

海と仮えれ雨うるうるし　多

大りとよもん拙しもよ　洞

恒ゝ春ちあ荷と蓋やる　来

[illegible]の炎うまこうやと　於
[illegible]の[illegible]の[illegible]　山
[illegible]月の内のこと　友
お撰ニ[illegible]係[illegible]　系
内[illegible]の[illegible]　書
[illegible]　[illegible]
[illegible]月[illegible]の[illegible]小路　清
[illegible]の[illegible]　[illegible]

名残

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
山[illegible]　[illegible]月　根
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　市
こ[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

稲妻の指りとろやるの中　松友
とろ〳〵日の暮るれば月の影　清雲
拍子揃して鳴るのいこちれ蛍哉　意味

仝

日の暮の暑さも先やまるわこり　堺門　秋一

金津　俳諧行

蕎麦子や〳〵〳〵と又鈴のうく　二遍
休む　第の茶屋　新茶時　ゆ尭
孝行ふんうしたる神社先て　森也
野り降りの市しも　茶　馬茶
山の陽ゑ行ふ月の内のうて　竹琴
のうまうるぬ家のあて　和吹
竹ちゑ修業の間しわちゑね　茶筅
鶯蛍の火ゑ祇行ゑ追〳〵　友志

一面の春に氣しるあり時ちがへり　蓬宗

うかれふしようれ爲め　友別

むの面ちがへる爲めの笑れと　琴水

きくと謠の臣かたるれ　眠子

不思議ちがへ小松し建て　一安

四拍子しらべ　旭松

ちらけていろは紙屑賣てやり　和泉

尾ちがへてきんさんが　素雲

月の有る附いろは板後し　鹿松

きを出る月雲と月　寄雲

古面ちがへるれかしよむ　東里

かいと縁の仲人去れよせ　井仙

角兵しのきれの紙家淨古家　蛍羽

ちがへるのを乾くや　頂里

きれときをうれもし咲ろ　若斯

月松上あきあ氣し永久日　素松

名残

炭竈よりこがねうちくゆる　琴水
雪しらみと砧うてるふるまの音　若新
蕎麦のうへ小倉し悟りをす　森七
宿久の夕ぐれや猫の片わすれ　一笑
山の名ゞもくしもそれ掃られ　和笑
柱るの折れちらしや冬の義の門　芦舟
折角ときのふ掃さしあるまじ　東雲

雲にうせてやうやうしんさり雲の形　素柱
又雲にうせてやうやうしんさり雲の形　蒙羽
お種のぬく毛さらしやまれる雨　茅渡
ふる人も雨の中をあるきて木陰ひ　東里
よの中をふれくるて杜鵑ひ　友志
ぬるるの雨ふるやまの雨　眠子
おりふしと咲をかるの雨のもの　旭校
鈴の菓子振りもぬるあるれや　乙列

めよ足の踏るの打るもしらるる泥　和泉
うくひすや捨て帰るとて捨ひ　素花
ゆ初をおるよりて時雨ひ　井仙
雲ちて人云ふ茶ぢ茶ぢひ　百里
ふハんち月出て松人毒の雨　玉来
ふもとやまおりぬ人ふ折る人　竹琴
傳ふ小さしふる新茶ふれ　寄考
ふ習ふ遠ひやふ法ふ火燈ひ　二逸

滝谷経文

ちひしんふかふ一ふ寺ふ帰ふふ彩　栗和
月行きもきれ青ふの柿ふ時　つ丈
雨乳しふふ河ふ乳の打けて　州尼
ふふふふふ水ふふ　純ふ　可林
何校しをこふ並ひてふふ滝　其柳
重版の写きんふ山房　南隆

百ぬてきふも春月の唐ひ板　和ら
別屋と鳥宵中流され　桂園
とこまてもんぢ鶯とやて　巴流
はやらん文　照なきん文　九流
そろしと世間ほのはるそけ　宗伯
雛のやうれ　春ろもなり　有志
秋のよ尼君の名しかーうくし　宗川
寒ちてて古ん　春れの　桂川

ちらくと筆屋の文のよれ春ちゃ　左
ちーとはるひて綿のすれ　和
ぢりるさくい九ッ十ヲ　林
れもれの立てあれる　居
まんうと市尼月のわ月お　隆
ぜるかみ山ぢ設まてまて　柳
ちんなこてさうれ入れ　園
ぬけそこちんの横ひん春て　ら

咲き残りたるものはちりぬとちりぬ　保

とちりぬ　信

谷孫

岩角のうかりてはなるかな　紫紅歌　百爲

いくしほるうしほのあさひ　左潮

名月や家とたしくまふしかるあさも　浪伯

寝ありしほのはるかぜ　雨葉

雪やよこれてとまるの中うしし　州左

とちりぬ　桂用

はうれそせりうれそせりの　為柳

おはぎの中とふこを庫の夕　和子

歳暮や雪板のうしろ　裏柳

雪ちりうまいまやり小仙花　松川

うし枯やとちりとそしるの月　有志

菊苗や乗れるの花のまつかぜ　巴孫

[illegible]　南陵

[illegible]の横れしちりて尾をひ　可林

人の氣も高く[illegible]や[illegible]のあり　女　永川

風やあつしちりて[illegible]　素和

三國　真ケ淵
[illegible]行

このうれしきしんやあり先　芦角

[illegible]　[illegible]

表[illegible]　遠巴

ちりと[illegible]　湖月

月[illegible]　只有

[illegible]の[illegible]　[illegible]

屁[illegible]　[illegible]

脈[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　路文

蒼しかりける春のひかりかな　和泉

出でそめし日の光にぞ緑青　柳枝

六位庭の使ひ返事ばかりかな　笹屋

活けそめてのけさ雅を　洛菊

筆禮に洛北の果物地蔵　其弁

野の草よ保育園の一日　一日

女房の筆ぶりこそ可ト　可ト

教書なれ中てまあるを　笹





ふるさと氣ひ折りて氣の月　春

霧れ沈む月の葉の下あるれ　巴

氣うむ蛙ふる解説ふる抵　月

ゆい扇て陳を長法　有

世の毒ひ雲ひ雨あるやうを　信

日和ひ作ふく法をさ作ふよ　弟

名孫

[illegible]　遠巴
[illegible]　和青
[illegible]　湖月
[illegible]　呂有
[illegible]　左流
[illegible]　里翁
[illegible]　[illegible]
[illegible]　可紅

[illegible]　路文
[illegible]　柳枝
[illegible]　[illegible]
[illegible]　路菊
[illegible]　喜水
[illegible]　一風
[illegible]　可卜
[illegible]　芳節

同　日和山
経文所

咲ことかりろさふり雲ふ　互軟

橋と咲し　又ふ柳と咲し　ツ柳

此方橋し橋ばかりなりて　遊く

乳母新宅ばかりおとたらく　文頃

ぬるこの月元の芋し洗ひあけ　浦夕

遠ゆ雪ありて芋し色はく　山之



閑市ふし元時　脇の名ゥ立てとうと　屁舟

和尚ふ悟りふりてこそや　玉家

玉蘭よ立ふの溝ひとり落　尼水

十日てふちんうふを　九日　の菊

附正ふもふ咲て咲ゥ紫　紫ふ

詠ふ橋ふるふふりあり　弄花

門ふのふし仲秋の月ふ　可愛

八卦の笠し写やふふく　車輝

[illegible]　柳多

集[illegible]の煙[illegible]根[illegible]時　融

はつかしてくり[illegible]の聲[illegible]　[illegible]

うの高麻　[illegible]遊

月[illegible]の[illegible]明のこり　頃

勝[illegible]山[illegible]山[illegible]夕

乳[illegible]湯治二[illegible]山

[illegible]く[illegible]拾[illegible]　舟

[illegible]　泉

かち[illegible]　凡

名[illegible]

柏[illegible]　浦夕

[illegible]の[illegible]　柳水

[illegible]　可[illegible]

[illegible]　凡[illegible]

吹和ぶるまはしやわきもの　寺静

第八の名ゝ考こゝを雖あるも　山之

あるゝ多んやふゝ寄りて拾ひ孔　可菊

菜のもやゝ本奥のまゝ皇きて　尋也

汐ゝ干るのあゝや松の色　家水

河背や金ゝん陳い退く咲　支硯

茅屋れの仏こるゝ枇杷の花　玉泉

和のまゝ孔やゝ考ゝ垣ゝ結れて　庖舟





けはしゝ月ゝ月ゝ表や先は　松之

ゝ孔ゝ考ゝ孔ゝの書抑孔　立融

蜻蛉雑家行

ゝ乙女やあゝゝこゝ孔ゝ孔ゝ　押陸

ゝ考ゝ孔ゝ孔ゝ徴毎の家時　山五

ゝ考ゝ孔ゝ表ゝ孔ゝ拾ゝ干ゝ孔ゝ　桐左

久ゝ孔ゝ孔ゝの孔ゝ孔ゝ孔ゝ孔ゝ　凡枝

ウ そもそもと汐干潟の月の弁田乃　此山
る遠し嶋よ北西しるく　里水
やりあり夕森を起れし女房きけ　為巴
時は　そもそこんなを出し　車井
門ト〳〵よ所の麓傳の角大原　一鴻
蘆まを小あけて色れは風　柳葉
和こ嘉のもい搭れ弓そそし　鳥珠
出閑をてのお名と立まき　なみ

目弘りよ世界をあの小嶋な　の上
ケ岡の書北ちんとして　陸
はの新れてる作中又一氣　茶
古屋の乃奥の篠し気を月と　た
清うあ風を舳よむをあ　松
元　はそ　ツ川し天神　山
ちちの月て作ふ氣ふる月　ち
棹ちし小のの和稲舟　巴

ウ
ゆかしさ年のさんうさやりあ　井
ぢの代され文しは来る　竹
一ぢんと咲度うあるく山の春　琴
文海あうさきんうんのまま　琢

名残

茶ぢかめのうと名ぎるやうしなれ　桐九
月花ゆかりひるしーの行事　鳥孫

指ふのうと折れんをけうと見　里子
世ぢかの美筋けてもみつい　柳葉
ゆかさきちうや松下常　友子
お氣と間りゆかあ清ちる　凡枝
花と出と氣とおうえて汲ていい　車井
さ育の清ゆるうさ松ふ　柳陸
ぬかとさしはもおうさ松初　沈丸宝　蕨巴
山咲やうち汲うさ松ふうさ　この上

百代や三月しろの水の中　一鴻
初雪や海ちかきまれ竿の瓶　竹山

西行

月数よめりし行くらうと弁　白
こゝ迄清しいものや掃屋　竹山
追悼しまゝ猶の蔵うりて　蘿玄
この里ちかめるやもるや　一雪



ウ
塲ちかき松原民のまそ引よ　知生
ちらばく市れおもやり市　盛二
東西とうてぬ陽居の口　功青　里仙
幸既いとめけて森ちふ　芳水
ちちかぶ代百里の火ちふ　素雲
門し乾よの生ん　お信　文平
ちのもし咲ちれ上ちて居て　武
花行し　仙屋うけて十六云　白

ねぶたの暦乗こんしてゆるし　雪

いくたびか過し年　玄

日位の馬と称とちつし　二

軍法や免て弼の元石へ　生

り焼うれと拵度と事の家　乃

いさよひし今宵我ふる　仙

庶のきゝ一事松の姿より　十

緑記と懸いちんきを丹さし　蘭



親（ウ）のよ年足弱の後免ぬるへやり　白

月下何や蓋く　孫外ト　苔

おのれうゝとまき文の義日和　雪

ゆて泊生うるのを日和　玄

名残

れうのうれ仕方　社うう　福井　習水

立し宵とうれ月書屏千雪　八丁　里仙

折ゆゑ松と中ふかし　大平浦　一長
鶯の鳴くけるさを滝こゑ　細く　奪巣　寺溪
稲妻のかよふ山もあの明る
山ばとや鶯と入ゐれ庵のあり　市を
隠るもちれしと鶯をりば　寺溪
ぬれおとをたづねし国　うちは　義風　立ちぬ
立初れ松やぬしるのかりこし　庫也　立初
又ふるり松山ふるやまの雪　加子坂　伯威



拾月ふるやタ氣の雪ふりぬ　口前　義雪
月の月を月ふりもれ抑れ　日所　巴月
蓮のこゑや折ゆゑ　宿也　利芳
夕栄や紅の毎ふしふし　小幡　盛二
稲ふちふふ杜の月　清　知也
松ふ秀ふちの月　鶴山　一鳥
法隆の中へ　庫也　女逝
栄翁のふれ　二文千

[illegible]

石情　籌玄

加賀

洋情

[illegible]

越中

[illegible]

名張

[illegible]

又二羽[illegible]

路圃

拾芥の中より新や 紺代ち 史云
ぬしきれこもの毒を出れ義を水 白汁
日高中の法をもつ竹義の毒の所 毒之
永こうりかおもひ竹 毒多 尼滝
毒とうえを出すこの松原を廉の多 故略
むりや猪毒れるの杖の縄 五芝
おのれて春を寄るの猪れ 烏来
涼しさを大川 出ケ月おい 和川

く宿の帰りは越の来りる 海柳
五月雨や滝に来るよりのと 布生
永実のやうに山路の時雨る 石れ
拾まる紙ちよりおの時れ 禁東
寒りを折るもれるのと 乙宗
芭蕉より京のねせ時鳥 壺山
業の月や乗ぬ咲ものの 松仙
をそりるやをしを義のと 祖丈

みちのくの山家にて　素石

さりくれ時雨はれゆく　三之

夏草やとこやらとさらす古戦場　路栗

ぬるく搾る蜂蜜あるの秋ひ　僧　元竜